

こころ医療福祉専門学校佐世保校
平成28年度第2回教育課程編成委員会 議事録

【日時】平成28年11月20日（日）13:30～14:30

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 4階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）、井手浩二（いで整骨院）

久貝博（ひさがい鍼灸院）

廣瀬典治、館川大輔、中村裕也、初村修平

欠席：諸岡辰巳（長崎県鍼灸師会会長、諸岡鍼灸院）

（敬称略）

1 開会の辞（司会 館川大輔）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 館川大輔）

各委員の紹介を行う。

3 学校長挨拶（校長 廣瀬典治）

5月の第1回教育課程編成委員会においての貴重なご意見やご教示に感謝する。本日は各学科がこれまで取り組んできたことを報告させていただく。この報告を踏まえて新たにご意見ご教授をお願いする。

一つ、ご報告を兼ねてお願いがある。厚生労働省より、平成30年度からのカリキュラムの変更について通達があった。これに伴い、今までになかった「臨床実習」が必修となった。実習でお世話になるかもしれないが、その時はよろしく願います。

本校は業界・社会のニーズに合った質の高いプロフェッショナルを育てることを目指している。健康鍼灸科は平成29年度に募集停止となるが、柔道整復科と同様、今後とも質の高い学生の育成のため、ご教示をお願いする。

4 柔道整復科（学科長 館川大輔）

田中）私は卒業から20年経つ。現在、認定実技の内容はどうなっているのか。

館川）5年ほど前から内容が大きく変わった。整復、診察、固定と大きく3つに分かれる。

そこからさらに分かれる。整復と診察の方は骨折、脱臼、軟部組織損傷。固定は、固定具を使った固定と、包帯だけの固定といった形で、全部で27項目。単純に認定実技を単位としてだけでなく、卒業後も使えるようなものにしていきたい。認定実技は27項目あるが、実技の審査内容は各学校に任されている。

田中) 平成30年度カリキュラム変更に対する学校の対応はどうしているのか。

舘川) 詳細に関しては厚生労働省のホームページを参照していただきたい。現行は2480時間以上、80単位以上となっている。新カリキュラムは2750時間以上、90単位以上に増える。確定ではないが、臨床実習について現行45単位以上を学校内でやったものを、学校外での実習にしなければならないようだ。佐世保校柔道整復科の時間割も現行は90分、90分、45分の3コマだが、90分の3コマへ変更予定としている。まだ確定ではないが、中身を充実していきたい。

田中) 臨床実習の受け入れ先はどうなっている。

舘川) 臨床実習施設の施設要件が新たに設けられようとしている。要件を満たしていない所では実習として単位のカウントをすることが出来ない。これから実習先としての依頼をお願いしていくところだ。

井手) 学生は認定実技に国家試験に忙しいだろう。何か緩和策はあるのか。

舘川) 卒業時の11月に認定実技審査があり、専門学校では必須となっている。国家試験は3月上旬で、認定実技からの期間が短く悩ましい。10月になると実技に集中して通常教科の勉強が疎かになる。対策として、夏前後に始めていた補講を5月から始めた。毎月の模試の結果を基に、基準を満たしていない学生は補講への参加をすすめている。当初は嫌々参加する学生もいたが、時間の経過とともにこちらから声をかけなくても、補講対象ではない学生も自ら補講を申し出るようになった。認定実技も国家試験も合格へ向けて意識づけを行っている。

5 健康鍼灸科 (学科長 中村裕也)

中村) 前回の会議から検討してみたが、すぐに取り掛かれるものはなかったため、次年度以降の取り組み内容となる。いかに学生が自分で考えるという習慣をつけられるかを、考えていかなければならない。久貝先生を訪問時、人間性の教育という話をいただいた。国家試験も大事だが、それ以外の所も必要だ。植物を育てて、体に取り込む。そういった生命に対する考え方を教えられればと思う。授業に取り込むのは難しいかもしれないが、姿勢を見せたい。

久貝) 健康教育や、食べ物が大事であるなどの教育も大切だと思う。針灸だけでなく、養生法などを勉強していただきたい。

中村) 時間をかけて行っていきたい。

6 全体的な質疑応答

田中) 学校教育は国家試験目的だが、通った後がスタートだと思う。就職時や就職後の把握はどうなっているのか。

舘川) 柔道整復科・健康鍼灸科共通して、就職の斡旋として合同説明会を年二回開いている。今年度は10月に1度長崎校で健康鍼灸科と柔道整復科で合同開催している。また、卒業生の動向も把握できている。連絡が取れなくなる者もいるが、ほとんどは繋がっている。連絡を入れる目的として、卒後教育がある。在学生、卒業生へ向けて勉強会を開催している。

田中) 他業種への移行率はどうか。

舘川) 現在のところは少ない。長崎校でもほとんどいない。6、7月で勤め先を変えたいと相談に来る学生もいるが、その時は就職情報を自由に閲覧できるようにしている。

校長) 人間性を育てるのはなかなか難しいが、挨拶は気持ちよくしてくれている。喫煙に関しては懸念事項がある。喫煙所が狭いのもあるが、吸殻を隣のビルへ投げ入れている形跡があった。非常階段の3、4、5階踊り場に灰皿を置いているが、他の場所でも吸っている学生がいるようだ。学生に注意喚起を行っているところだが、今朝見るとポイ捨ては1本もなかった。ここ1週間のことであるが、素直に聞いているようだ。今後も指導を続けていきたい。

久貝) 佐世保校最初の卒業生の国試合格率は100%だったのか。

舘川) 100%ではない。

久貝) 落ちた学生は再受験するのか。

田中) 国家試験の合格率が下がっており、再受験しても合格は難しくなっているようだ。

久貝) 佐世保校は何人落ちたのか。

中村) 5名だ。

久貝) 国家試験は何点取れば合格というラインがあるのか。歯科の国家試験は試験後に臨床研修があり、その合格ラインまでしか通さない。合格したかは本人もわかるようになっているのか。

中村) わかるようになっている。

久貝) 国家試験不合格も回数を重ねるとモチベーションが下がり、再受験でも合格できない学生もいるだろう。

7 閉会の辞（司会 舘川大輔）

以上で本委員会を終了する。